

【SUPER GT 第6戦 / スポーツランドSUGO レポート】
ファイナルラップの逆転劇でリアライズコーポレーション ADVAN Z が9年ぶりの勝利を挙げた！



2025年のSUPER GT第6戦がスポーツランドSUGOで開催された。ようやく秋らしい陽気となったこの1戦で、ヨコハマタイヤ勢が予選、決勝で躍動。雨上がりの戦いとなった公式予選では「CARGUY FERRARI 296 GT3(ザック・オサリバン選手／小林利徳斗選手)」が初めてのポールポジションを獲得し、決勝レースでは「リアライズコーポレーション ADVAN Z(松田次生選手／名取鉄平選手)」が実に9年ぶりの勝利を挙げた。



8月末に行われた第5戦鈴鹿大会は、気温35度、路面温度も50度を超える猛暑の中での戦いだったが、1か月が過ぎた東北地方は、雨がらみの天気ということもあり週末を通して気温は25度を下回り、涼しいレースウィークとなった。雨が降るといふ予報だった公式予選は、その予報が外れドライコンディションでの戦いになり、GT300クラスでは10台のヨコハマユーザーがQ2に進出、熾烈なポールポジション争いを繰り広げた。そのなかで、前戦で勝利を飾り、フルウェイトを搭載しているCARGUY FERRARI 296 GT3が見事にトップタイムをたたき出しポールポジションを獲得。Q2を担当した小林選手は、「オサリバン選手がトップタイムでQ1を通過してくれ

で、嬉しいと同時にプレッシャーがかかりましたが、選んだタイヤがちゃんと作動してくれて、ミスなく走ることができました。悪くないタイムだろうとは思っていましたが、まさかポールポジションが獲れるとは思っていませんでした」と驚きまじりの喜びを語った。

GT500 では、Q1 を 9 番手で突破したリアライズコーポレーション ADVAN Z が、Q2 での名取選手のアタックで 5 位にポジションアップ。決勝を見据えたタイヤ選択だけに、翌日に向けて楽しみなスタート位置をゲットした。



暑さが戻ってくると予想されていた決勝日は、予選日の夜半から明け方にかけて雨が降った影響でひんやりとした空気の朝に。秋らしい涼しさの中、84 周にわたる決勝レースがスタートした。リアライズコーポレーション ADVAN Z は松田選手がスタートを担当し、前日の狙い通りに好ペースで追いついていく。4 周目には 4 番手、9 周目には 3 番手と順調にポジションを上げていき、24 周目の 1 コーナーではついにトップに浮上。26 周目にはライバルの先行を許し 2 番手に後退するが、再浮上のチャンスをうかがいながら周回数を重ねていった。40 周を終えるところで名取選手へと交代し、再び追いつきを開始。

ところが 49 周目に、コース上で複数台の車両が絡む多重クラッシュが発生し、レースは一時赤旗中断となる。幸い、ドライバーたちに大きなけがはなく、約 1 時間の中断のちにレースは再開。最大延長時間も迫り、残り 30 分という短いステイメントでの戦いとなった。名取選手は 3 番手から前を目指し猛プッシュ。56 周目には GT300 クラス車両が 1 コーナー付近でストップしてしまったことからフルコースイエロー（FCY）となり、解除のタイミングで 2 番手のマシンに急接近すると、1 コーナーで見事な大外れりを見せてオーバーテイクした。残り 13 分となり、名取選手はトップの車両を追いかける。レース終盤になってもペースは衰えることなく、2 秒というトップとの差をみるみる削っていった。テールトゥノーズの戦いは 4 周にわたり、名取選手は 1 コーナーや馬の背コーナーなどで何度も勝負を仕掛けていくが、レース巧者のライバルもしっかりとラインを防いで応戦。

残り時間が 48 秒となったところでコントロールラインを通過し、これがファイナルラップとなる。1 コーナーでアウトから並びかけるも届かず、争っている間に 3 番手も迫り、三つ巴の戦いでバックストレッチから馬の背コーナーと入っていった。ここでイン側を守りに行ったトップ車両に対し、名取選手はアウト側から横に並びかけ、サイド・バイ・サイドで SP コーナーに飛び込んでいく。馬の背からは切り返しとなる SP コーナーではイン側ポジションになる名取選手が相手の前に完全に出て、これでリアライズコーポレーション ADVAN Z はついにトップ浮上。そのまま最終コーナーを駆け上がると、チームとしては 9 年ぶりとなるトップチェッカーを受けた。



GT300 クラスはポールポジションスタートの CARGUY FERRARI 296 GT3 に 2 連勝の期待がかかったが、決勝レースではペースに苦しみ徐々に後退。代わって「リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R(ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ選手／平手晃平選手)」がポジ

ションアップしてくる。レース再開後の 30 分は 2 番手を走行していたオリベira選手が猛追したが、わずかに時間が足りずにトップには届かず。それでも開幕戦以来の 2 位表彰台獲得でチームランキングは 3 位浮上。オリベira選手は 2 戦を欠場しているが、チームメイトの平手選手がドライバーズランキング 2 位に浮上した。そして今シーズン GT300 初エントリーの seven x seven PORSCHE GT3R (ハリー・キング選手/近藤翼選手) が 3 位となり嬉しい初表彰台を獲得した。

またグッドスマイル初音ミク AMG (谷口信輝選手/片岡龍也選手) は惜しくも表彰台は逃したものの 4 位入賞。シーズンを通しコンスタントにポイントを獲得し、今大会終了後にランキングトップに躍り出た。



■ 松田次生選手 (リアライズコーポレーション ADVAN Z)

【今回の成績 : GT500 クラス 優勝】

開幕戦で予選 3 位になりタイヤの方向性が見えたものの、なかなか思うようにいかないこともあり、前戦鈴鹿大会では自分のミスで申し訳ないことしたのですが、そこでも方向性はさらに定まってきたので、今日のレースに向けては自信を持っていました。新しくなった舗装に関しても「こういうことなんじゃないか」と予想していたものが、ばっちりとはまりました。チームにとって久々の優勝ですし、僕自身目指していた 25 勝目を挙げる事ができて本当にうれしいです。

■ 名取鉄平選手 (リアライズコーポレーション ADVAN Z)

【今回の成績 : GT500 クラス 優勝】

GT300 デビューは KONDO RACING でその年に優勝、GT500 のステップアップも KONDO RACING で、こんなに早く優勝を飾ることができ、何か運命のようなものを感じます。ここまでライバル勢が好成績を続けていて、悔しい思いをずっとしてきましたが、自分たちも負けていないんだというところを見せられてうれしいです。

■ ジョアオ・パオロ・デ・オリベira選手 (リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R)

【今回の成績 : GT300 クラス 2 位】

私たちにとって、途中でレースが中断してしまったことはあまり良いものではありませんでした。終盤、トップをとらえるにはレース時間が短すぎました。この週末、タイヤの消耗やピックアップに苦しんでいるチームが多いように感じましたが、自分たちは問題なく、ヨコハマタイヤがよいタイヤを用意してくれたと思っています。チームに最高の結果をもたらせるよう、残り 2 戦も集中していきます。

■ 平手晃平選手 (リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R)

【今回の成績 : GT300 クラス 2 位】

前半にマージンを築いてオリベira選手に渡せたのですが、終盤は前を追いかける時間が短くなってしまい、嬉しい 2 位というより悔しい 2 位です。想定していたよりは路気温が上がりなかつたものの、今回選んだタイヤはその温度域もカバーできるものだったのであまり心配はしていませんでした。もちろんスイートスポットに入っていたわけではないので本来のパフォーマンスではなかったのかもしれませんが、その

中でしっかりと耐えてくれて、あの展開にできたのはとても良かったです。オートポリスでは楽しいタイヤを投入できるかもしれないので、それを武器に予選から前に行きたいです。

■ 中崎敬介 [横浜ゴム（株） タイヤ製品開発本部 MST 開発部 技術開発 1 グループ・リーダー]

(24号車のタイヤについて)

新しく改修された SUGO の路面については、まだ蓄積は少ないですがその感覚やデータは持っていたので、少し硬めの耐摩耗性なども考慮した仕様で挑みました。相反するウォームアップ性能やグリップ力について、暑い今年の9月の東北の気温を読み切ることや新路面のクリップ力の変化を考慮する必要がありましたが、チームさんとメリット・デメリットについていろいろな意見交換を重ねた結果の判断は、良い結果に繋がったと思っています。

次戦オートポリス大会は、今回の東北の気温よりもっと下がってくると思いますので、全体的に低温寄りにシフトした仕様を持ち込むことになると思いますが、引き続きチームさんと意見交換しながらベストな戦いが出来るよう頑張ります。